

滑石中学校 平和宣言文

私達はこれまで、戦争の悲惨さ、そして、平和の大切さを伝えていくために平和学習をしてきました。長崎に原爆が投下されて80年の年月が経った今でも戦争や殺人事件、育児放棄、インターネットを通じての誹謗中傷、いじめなど、心が痛む出来事が起きています。このような状況の中、私達は今、何ができるでしょうか。

今、私達は学校に通うことができます。家に帰ったら家族と話せて、一緒に食事ができます。このような些細な日常の平和。誰もが当たり前に入れていい平和。これを一瞬で壊すもの、それが核兵器です。

滑石中学校では、平和活動の一環として、被爆遺構や原爆資料館に行きます。そこには被爆遺構など、当時の状況が詳細に展示されていました。熱風による建物の崩壊や原型をとどめない品々、被爆者の痛ましい体など、想像していたよりもひどい有様を、リアルで見、驚きで声が出ませんでした。

被爆体験家族証言講話では、戦時下の様子や、当事者の証言とともに、原爆について語る人が少なくなっていることを知りました。これらの活動から、長崎市に住む中学生として、私達ができることは、原爆の悲惨さをしっかり受け止め、平和とは何かを考え、先人たちの思いを継承しながら、発信していく人になることだと改めて思いました。また、総合的な学習では、「平和な社会の実現を目指す」をテーマに探求学習を行っています。平和な社会の実現に長崎のことだけではなく国際情勢についてや、世界規模の問題について知る必要があります。私達は学んだことを自分たちだけの知識にせず、世界中に広める発信者になっていかないとはいけません。

そこでまず私達ができる「平和行動目標」を掲げ、平和宣言とします。

- 一 原爆を体験した長崎市民として「核兵器の恐ろしさ・戦争の悲惨さ」や「平和の尊さ」を後世に伝えていきます。
- 一 今の当たり前の日常に感謝し、将来二度と戦争を起こさないように努力していきます。
- 一 武力ではなく話し合いによって問題を解決し、平和で平等なお互いを認め合う民主的な社会を築いていきます。

令和7年8月9日
長崎市立滑石中学校生徒一同